



造形 秋田

NO.59 (令和4年度)

2023.4

秋田県教育研究会造形部会
秋田県造形教育研究会

チャレンジの年度・・・改めて感謝

秋田県造形教育研究会
会長 大野 一紀

令和4年度「造形秋田」の発刊にあたり、編集及び執筆にご協力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。

今年度も引き続きコロナ禍ではありましたが、Withコロナということで、これまで中止していた秋田県造形教育研究会のいろいろな取組を復活させ、新たに進める「チャレンジ」の年度となりました。

例年夏休みに行われていた、研究部が中心となって行う研修会である「造形セミナー」を秋田市のにぎわい交流館AUを会場に3年ぶりに再開することができました。講演講師に岩手県で指導教諭を務める佐々木俊江先生をお迎えし、「子どもをよく見つめて理解に努めることが授業改善の基本」であることを学ばせていただきました。本県からも、実践発表として田中真二郎先生からICT活用についてご紹介いただきました。研究部長を中心に、準備段階では一日日程で進めていたのですが、感染対策の必要があり、午前中のみの日程となりました。それでも、久々に全県各地から造形会員が一堂に会し、一緒に研修を行ったことは大変意義のあるものでした。

また、年明け早々に行われていた「児童生徒美術展」についても、会場を新たに秋田市文化創造館とし、地区審査を経た作品941点を全県から持ち寄り、協力して展示を行い実施することができました。初めての展示場所であり、かつ、3年ぶりの開催であるため、計画段階から相当に苦勞しましたが、事業部長が中心となり意欲的に準備を進め、たくさんの人に喜んでもらうことのできたすばらしい展覧会となりました。

いずれも、新たなチャレンジが必要な取組であり、準備が本当に大変ではありましたが、大きな成果を上げることができました。改めて、責任をもって全体のためにがんばってくれた各担当の皆様へ深く感謝いたします。加えて、各地区の会長及び事務局の皆様には、春と冬の総会にて建設的なご意見をいただきありがとうございました。

今年度は、「全県の造形教育研究会員一人一人が力を合わせることで、いろいろな困難を乗り越えることができる」ということを実感できた年度となりました。新たな取組の中で見つかった課題については、今後に向けて検討を進め、改善していきます。

これからも協力し合い、チャレンジを恐れず、創意工夫により、本研究会の取組を更によりよいものにし、我々自身の学びを深めて子どもたちの学びにつなげていきましょう。



造形秋田

No.59

目次

巻頭言

1

チャレンジの年度・・・改めて感謝

11

各地区造形教育研究会の活動報告

12

県造形教育研究会教育テーマについて

14

造形セミナー

秋田県児童生徒美術展・話題作一覧

表紙絵 躍動

田代中学校2年 高橋 結空

各地区造形教育研究会の活動報告

組織

会長	山口 史人	(柴平小学校)			
副会長	関 清志	(八幡平中学校)			
事務局	川口 好陽子	(柴平小学校)			
研究部	関 清志	(八幡平中学校)	理事	橋本 忍	(尾去沢小学校)
事業部	滝澤 政夫	(大湯小学校)	理事	山崎 明子	(十和田小学校)
会計監査	辻 明日香	(十和田小学校)	理事	海沼 智恵子	(花輪小学校)

主な事業

令和4年度総会
(鹿角市立花輪中学校 / 4月)

県児童生徒美術展鹿角地区審査会
鹿角造形教育研究会 研修会
(文化の杜交流館コモッセ / 12月12日)

鹿角小・中・高合同美術展
(コモッセ / 1月20日～1月25日)
作品を見合う会 (1月25日)

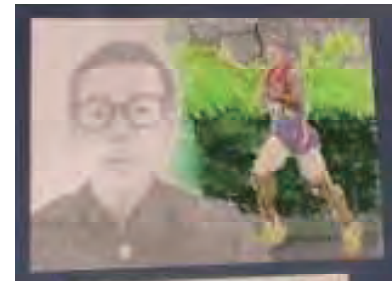


研究会(事業)の記録

県児童生徒美術展鹿角地区審査会 (12 / 12)

今年度は、小・中合わせて165点の作品が出品され、そのうち、小学校33点、中学校22点の作品が入賞した。

1月に行われた県の審査会では、小学校から2点、中学校から1点が話題作に選出された。



話題作 (中3)

鹿角小・中・高合同美術展 (1 / 20～1 / 25)

今年度も小・中・高合同美術展を開催した。県児童生徒美術展に出品された小・中学生の作品165点のほかに、高校生の作品も出品され、多くの来場者に鑑賞していただくことができた。

作品を見合う会 (1 / 25)

秋田県教育庁北教育事務所田森舞指導主事を講師としてお招きし、作品を見合う会を開催した。

講話の中では、「造形遊びなどを通して、どれくらい子どもが材料や用具を経験しているかがその後の造形活動の基盤となる。中学校でも『造形実験』という用具、道具、材料に触れ親しむ活動が重視されている。」というお話があり、様々な技法の経験や豊富に準備された材料から、児童が自分の表したいものによって素材を選択することの大切さを再確認した。どうしても、教師の「こういう作品を作らせたい」という意図により題材を選択しがちだが、「こういう力を見童に付けさせたいから、そのためにどんな題材を選択するか」という授業作りの根幹に関わるお話も大変参考になった会であった。



話題作 (小4)



話題作 (小2)

組織

会長	藤嶋 幹子	(鷹巣東小学校)		
副会長	三澤 正敏	(成章小学校)	渡辺 俊春	(長木小学校)
	津谷 美穂子	(阿仁合小学校)		
事務局	コリガン 麻衣	(第一中学校)	渡辺 睦子	(合川中学校)
県役員	[研究部] 沼田 桃子	(鷹巣中学校)		
	[事業部] 佐々木 亜希子	(田代中学校)		
	[事業部] 木村 明美	(米内沢小学校)		
会計	佐々木 由美	(北陽中学校)	山崎 真紀子	(東中学校)

主な事業

大北造形研究会総会
(4月メール配信型)

第63回秋田県児童生徒美術展
地区審査会
(11月28日田代公民館)

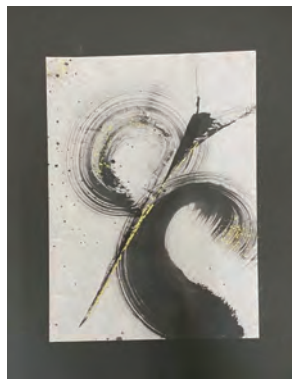
秋田県造形教育研究会造形セミナーに参加
(大北夏季実技研修会を兼ねる)
(8月2日にぎわい交流館 AU)

第45回絵を見て語る会
大北造形研究会最終理事会
(1月24日田代公民館)

研究会の記録

3年ぶりに児童生徒美術展で作品展示もされるということで、募集数も応募数も増え、充実した審査会になった。それにともない、絵を見て語る会でより研修が深まるよう、実践例を紹介してもらう形式で開催した。審査会で入賞した作品について、授業された先生にアンケートをお願いし、授業時数・事前準備・材料や用具・題材の流れ・成果と課題について教えていただいた。児童・生徒が制作しやすい環境の整え方や、どのような声かけが想像力をふくらませるのによかったかなど、授業の細かなポイントについてたくさんの実践例をもとに研修を深めることができた。同じ題材で同じ用具を使っているでも展開の仕方違う作品になるので、どのようなねらいにするか、どのような導入・展開にするか、完成後の展示方法などについても、美術展を機会にこれからも会員で研修を深めていきたい。

話題作に
選ばれた
作品



組織

会長	佐藤 達治	(浅内小学校)			
副会長	鈴木 正樹	(藤里中学校)	長浜 笑子	(東雲中学校)	
会計監査	川田 由美子	(琴丘小学校)	小松 千優	(浅内小学校)	
事務局	岩谷 修一	(琴丘中学校)			
理事	渡部 悦子	(能代第一中学校)	梅田 由美子	(浜口小学校)	
	越後谷 知子	(峰浜小学校)	鈴木 悦子	(湊城南小学校)	
研修班	田中 絵里奈	(能代第一中学校)	越前 芳広	(第四小学校)	
	小山 由美子	(二ツ井小学校)	嶋田 睦美	(湖北小学校)	

主な事業

夏季研修会

「これからの造形教育～授業のあり方、
題材の考え方を見直す～」7 / 28

秋田県児童生徒美術展審査会

兼「児童生徒の絵を見て語る会」12 / 14

授業研究会

二ツ井小学校

「ようこそ！二ツ井水族館へ～でこぼこを
生かして～」(3年生) 10 / 18

研究会の記録

夏季研修会

7月28日に能代市立浅内小学校において、「これからの造形教育～授業のあり方、題材の考え方を見直す～」というテーマで、大仙市立中仙中学校教諭の田中真二郎先生を講師に研修会を実施した。内容は「現在の教育事情」「授業のあり方、題材の考え方について」「みんなでワーク！+鑑賞会」「これからの造形教育について」という4点についてであり、プレゼンテーションで分かりやすく教えていた



だき、研修を深めることができた。

部会員からは「子どもたちがいかに自分ごととして捉えさせるか、どんな力を身に付けさせたいか、何のために学ぶのかを明確にした授業が大切だと分かった。」「子どもを引きつけ、必然性をもって向かわせる美術の時間を展開させていて素晴らしかった。」「足を使って地域に入り、地域を活性化する行動力を見習いたい。」などの感想があり、授業の先に何があるのかを考え、生活や社会に結びつけていく力を身に付けることの大切さと必要性を改めて学んだ有意義な研修会となった。

授業研究会

10月18日に能代市立二ツ井小学校において、本間亜希教諭が「ようこそ！二ツ井水族館へ～でこぼこを生かして～」(3年生)の授業を提示した。

本時は「友達に自分の版のイメージを説明し、互いに意見を交流し合い、自分の版づくりに生かすことができる」ことをねらいにした授業であった。

一人一人の子どもが作りたいイメージをはっきりともっていて、アドバイスを伝え合い、楽しんで創造活動に取り組む姿が印象的であった。また、振り返りとしてタブレットで画像比較をするなど、ICTが効果的に活用されていた。



組織

会長	松田 万寿雄	(美里小学校)			
副会長	中川 努	(羽城中学校)	近江 和佳子	(天王南中学校)	
運営委員	佐藤 健太郎	(脇本第一小学校)	横山 雄一郎	(大豊小学校)	
	佐藤 恵	(五城目第一中学校)	小林 博子	(八郎潟中学校)	
事務局	伊藤 晃	(美里小学校)			

主な事業

運営委員会 5 / 26 (木)

教科等研究会 11 / 9 (水)

県児童生徒美術展地区審査(話題作の選出) 12 / 8 (木)

研究会の記録

(1) 研究主題 よろこび・わくわく新たな発見～キラリ感じてつなげる, 広げる～

(2) 活動の概要

① 教科等研究会

◆会場

潟上市立羽城中学校

◆時間

14:05～16:20

◆内容

秋田市立千秋美術館の所蔵品について
(秋田蘭画や秋田の日本画を中心に)

◆講師

村田梨沙学芸員

(秋田市立千秋美術館・岡田謙三記念館)

◆所感

はじめに受講者自身の美術館・博物館体験についてアンケートに答えることで、美術館・博物館の役割を見つめ直した。続いて、秋田蘭画についてスライドを見ながら受講した。遠近法や陰影法など日本で先駆的な取り組みが郷土の秋田で行われていたにも関わらず、その作品の魅力や意義について知る機会が今までほとんどなく、児童生徒にも紹介する機会が少なかった。この研修会をきっかけに日常の造形教育に生かしていきたいと感じた。



② 県児童生徒美術展地区審査・子どもの作品の方研修会

◆会場

潟上市市民センター昭和館

◆時間

15:30～16:30

◆所感

新型コロナウイルスの影響で休止されていた「県児童生徒美術展」が3年ぶりに開催されることになり、それに合わせて12月8日に地区審査会等を実施した。久しぶりの開催で準備作業で戸惑うこともあったが、役員を中心に協力して審査を行うことができた。また、参加者同士で指導方法や評価方法などの情報交換も併せて行うことができた。反省点を洗い出して次年度に生かしたい。

組織

会長	菊地 篤	(雄和小中)		
副会長	三浦 直樹	(下浜中)	築地 洋	(中通小)
	黒澤 淳	(八橋小)		
事務局	渡部 英明	(勝平小)	中尾 裕子	(山王中)
	小泉 水季	(旭川小)		
幹事	小林 さおり	(将軍野中)	三浦 茉莉	(川尻小)
会計	佐藤 廣子	(勝平中)	櫻田 麻莉恵	(外旭川中)

主な事業

大森山動物園
第45回親と子のふれあい写生大
(大森山動物園と共催：審査日8月19日)

全市一斉授業研究会 (中学校)
授業日 (土崎中)、協議会 (雄和中)
10月5日 (水) 10月26日 (水)

秋田県児童生徒美術展秋田市審査
審査会場 (秋田南中学校)
審査日12月3日

クローキー巡回展：市内各小学校12月～2月
(審査1月16日～19日、展示2月中旬
に入賞作品スライドショー公開予定)

親と子のふれあい写生大会

今年も昨年度と同様に、昨年度と同じような方法で実施することとなった。立体の部は中止し、原則園内での制作をせず、自宅での制作とした。園内での簡単なスケッチや写真・動画撮影は可とし、それらや園の公式 SNS などをもとに制作してもらうことにした。集まった作品は昨年よりは少し増え、約375点の応募があった。8月19日(金)に秋田市造形教育研究会の担当が審査した。作品制作のテーマである「動物との語り」を踏まえて子どもの思いが伝わる作品を尊重し、時には裏面にある題名を手がかりとしながら、子どもが対象とする動物へどんな思いを抱いているのか、どんな様子を表したかったのかを考えながら審査した。各学年総じて、どんな様子を表したいか、そのために効果的な表現方法は何かを考えながら描いたことが伝わる作品が受賞したと言える。今年度も、作品を見る目を養う有意義な研修の場となった。来年度こそ、動物たちと対話しながらの写生会が行われることを願っている。



【審査の様子】

研究会の記録

全市一斉授業研究会 (中学校) 授業10/5 (水) 土崎中学校富田文絵先生
協議会10/27 (水) 雄和中学校

題材名「じーっと見てみてね。～アートカードで美術に触れよう」(2年生)

アートカードを活用して様々な美術作品に触れ、形や色。構成、表現効果、作者の思い等、個々が感じ取ったものをもとに意見交換することで、美術作品のよさや美しさを鑑賞する豊かな感性を育てることをねらった授業であった。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から授業参観ではなく、授業の動画を会員が視聴しそれをもとに協議会を別日に開催するという形式で行われた。協議会では、「新学習指導要領を踏まえて、育てたい力を明確にした題材の工夫と支援の在り方」という協議題のもと活発な意見交換が行われた。ただ、実際の授業ではなく動画視聴をもとにした話し合いということで、子どもたちの個々のグループの様子や授業の雰囲気等が分からない部分も多かった点が今後の課題と思われる。



組織

会長	倉田 和人	(岩城中学校)
副会長	菊地 邦彦	(西目小学校)
事務局	山下 奈知	(本荘南中学校)
	宮田 幸江	(尾崎小学校)
研究部長	関口 琢也	(金浦小学校)
会計	須田 秀二	(仁賀保中学校)

主な事業

令和 4 年度造形部総会 (紙面) 4 / 27

造形部研修会 12 / 7

本荘由利図工・美術の学び展 12 / 17 ~ 12 / 19

夏季研究集会への参加 8 / 2

研究会の記録

1. はじめに

各校の教科研究や地区の研究会等で造形部員それぞれが研鑽を積み、指導法の研究や児童生徒の表現がどうあるべきかを考察すること、また、夏季研究集会・本荘由利図工・美術の学び展・県児童生徒美術展など、様々な形で積極的に研修することを当会の具体的な目標とした。特に、本荘由利図工・美術の学び展は各校の造形活動の取り組みを紹介し合う機会であり、より幅の広い意味での情報交換の場となっている。昨年度から展覧会名を一新し、名札に作者の思いを入れて掲示するようにした。また、「豊かな学び」というみてもらいたい表現の選出を通して、子どもの表現の見方や造形活動の在り方について研修する活動の意義は大きい。

2. 各事業の成果

(1) 夏季研究集会への参加 (8月2日)

本荘由利教育研究会造形部夏季研究集会では、秋田県造形教育研究会による「造形セミナー」に参加した。講演では「明るい未来を拓く造形教育～子ども法海に基づいた授業実践から～」という演題で他県の取組について知ることができた。また、実践紹介は「授業等における ICT 活用について」というタイトルで、今後の授業に役立てていける内容であった。

(2) 造形部研修会 (12月7日)

由利本荘市市民交流学習センター多目的ホールを会場に、県児童生徒美術展に出品する本荘由利の作品を選出する公開審査会として行った。26年度から立体作品の審査も行っているが、各校の出品数を事前に報告してもらうことで審査時間を短縮することができた。造形部員にとっては、児童生徒の作品の傾向・良さ・課題について話し合う有意義な研修の場となり、今後の授業に役立つ多くの情報を得ることができたはずである。

また今年度は、審査で選出された作品を新しい会場となる秋田市文化創造館にて、3年ぶりに展示することができた。

(3) 本荘由利図工・美術の学び展 (12月17日～12月19日)

由利本荘市文化交流館「カダーレ」で開催した。テーマである「あっ、いいこと考えた」を反映した個性豊かな表現が多く見られた。カダーレを会場として実施するのは11回目ということで、3日間で1200名を越える来場があり、多くの方々に見ていただけた。

出品作品の中から造形部が目指す表現を「豊かな学び」として選出した。各小中学校の教職員及び、造形部員の熱心な取り組みと各校の協力で、運営面・作品の内容ともにより充実した美術展となった。

来年度も本荘由利図工・美術の学び展が新学習指導要領の趣旨に則った研修の場となるように協議を重ねていき、具体的な取組を各校に発信していく予定である。

組織

会長	西野 美佳	(横堀小学校)			
副会長	菅原 靖	(中仙小学校)	永田 縁		(南外小学校)
	熊谷 留美子	(太田東小学校)			
監事	三浦 典子	(大曲小学校)	新目 麻衣子		(角館中学校)
幹事	澁谷 千里	(大曲西中学校)	佐藤 好一		(西仙北中学校)
	佐藤 智美	(内小友小学校)	小林 翔子		(太田中学校)
	三浦 里子	(大曲小学校)	田中 真二郎		(中仙中学校)
	渡邊 真理子	(大曲中学校)			

主な事業

大郡市教育研究会総会
決算報告と予算決定、研究テーマ、
活動計画、役員決定※紙面決議

大曲仙北造形教育研究会夏季研修会
会場：秋田市にぎわい交流館 AU
8月2日 (午後)

第63回秋田県児童生徒美術展地区審査会
及び冬季研修会
12月2日
第53回大曲仙北児童生徒美術展
会場：大仙市大曲交流センター
12月3日～12月4日

令和4年度大曲仙北造形教育研究会秋季研究会
会場：大仙市立大曲中学校
10月27日

大曲仙北造形教育研究会研究推進会議
5月30日・9月9日

研究会の記録

●研究テーマ「思い豊かで楽しくてたまらない造形教育を求めて」

研究の重点

- 「自ら表したいこと・考えたいことを見付けさせる指導の手立て」
- 「子どもたちが学びを実感できるような指導と評価の手立て」
- 「ICTの効果的な活用」

●関連事業

- ・大曲仙北造形教育研究会夏季研修会
秋田県造形セミナー開催日の同日午後秋田市で研修会を設けた。
午前は県造形セミナーに参加し、午後は秋季研究会に向けて授業構
想と指導案の検討を行った。
- ・令和4年度大曲仙北造形教育研究会秋季研究会
「授業実践（大曲小・大曲中）の映像視聴による研修・協議」、「指導
主事高橋聖子先生による講話・演習（図工・美術科におけるICTの
活用及び主体的に学習に取り組む態度の評価について）」、「授業実践
例（大曲小・大曲南中）紹介・協議」を行った。
- ・第63回秋田県児童生徒美術展地区審査会及び冬季研修会
- ・第53回大曲仙北児童生徒美術展
県児童生徒美術展の平面・立体部門出品作品と、郡市児童生徒美術
展として自由部門の出品作品を募り、3年ぶりに全応募作品を展示
した美術展を開催した。全校で取り組んだ作品の展示等、各校の取
り組みも紹介された。



夏季研修会指導案検討



秋季研究会



組織

会長	美濃 俊幸	(横手南中学校)
副会長	藤井 志津子	(浅舞小学校)
研究部長	柴田 緩子	(横手北中学校)
事業部長	高橋 輝樹	(横手明峰中学校)
監事	吉沢 理	(十文字中学校)
	千田 圭子	(十文字小学校)
事務局	佐藤 潤	(横手南中学校)



【夏季研修会】

主な事業

夏季研修会（秋田県立近代美術館研修室）
令和4年8月20日（木）
「糸かけアート体験」講師：牧野楊須子先生

横手市児童生徒美術展
(横手駅前交流センターY2プラザ)
令和4年11月11日（金）～14日（月）

秋田県児童生徒美術展地区審査
(横手駅前交流センターY2プラザ)
令和4年11月14日（月）



【横手市児童生徒美術展会場】

研究会の記録

○ 夏季研修会

・今年には実際に素材に触れながら、体験する研修に取り組みたいと思い、糸かけアートに取り組んだ。講師は能代を中心に活動を展開している牧野楊須子先生をお招きした。素数をもとにピンに糸を順番にかけていくと美しい幾何学模様が出来上がるというのが、糸かけアートである。もともとシュタイナー教育で素数を学習する為の学習方法として始まったというが、今では精神を落ち着かせる為に制作するという方もいるという。我々は2時間半という限られた時間の中での活動だったので、講師の先生が提示してくれた図案をもとに制作に取り組んだ。基になっている図形は同じであるのだが、選択した色糸、重なる順番の違いだけで、それぞれの作品は全く異なる表情を見せ、それぞれが満足できる仕上がりとなった。

〈参加者から〉

・最初は難しそう、大変そうと思ったけれど、コツをつかんだら作業スピードもあがり、いつの間にか集中して取り組んでいた。出来上がった作品を見ると、どれも素敵だった。他の人の作品を見て「そういう色の組み合わせもありだな」という発見があった。

○ 第46回横手市児童生徒美術展・秋田県児童生徒美術展地区審査

・同じ教科書、同じ題材をもとに取り組んでいるのだが、子供たちの作品にはそれぞれの思いや考えが込められ、見る側は、その都度感激させられる。木を描くにしても、生徒それぞれの表したいことがあり、それをどうやって表現しようかと試行錯誤している様子が絵を通して伝わってくる。また、造形遊びをもとにした作品は好きな色や形を使って、楽しむことに没頭した後に行き着いた作品であることが伝わる。

作品を前にし、児童生徒個々にどのように自分のテーマを見出させているのか、どのように発想を促しているのか、我々も情報交換をすることができ、有意義な研修の機会になった。



組織

会長	三浦 秀巳	(三輪小)
副会長	藤原 和彦	(雄勝小)
事務局	鈴木 陽	(湯沢東小)
	井上 晴子	(羽後明成小)
研究部	長雄 義明	(雄勝中)
幹事	池田 亜紀	(稲川小)
会計	高橋 香理	(湯沢南中)

主な事業

秋田県児童生徒美術展地区審査
(三関地区センター／令和4年11月21日)

会誌「このゆびとまれV o 1. 22」
製本・発送
(湯沢東小学校／令和5年1月27日)

郡市一斉研(授業研究会)中止
→ 研究授業のDVD視聴に変更

研究会の記録

◎秋田県児童生徒美術展湯沢雄勝地区審査より

総出品数 218 点 (小学校 142 点・中学校 76 点) のうち、54 点を本郡市の入賞作品として選出した。

以下に今年度の審査講評からの特記事項を抜粋する。

(低学年) サツマイモ、海の生き物、アサガオなどを題材にした作品が多かった。明るい色使いで素直にのびのびと描いていた。クレヨンと水彩絵の具の組み合わせ、ステンシル版画などカラフルな色使いで描かれた作品が目を引いた。

(中学年) にじみ・ぼかしや紙版画の技法の良さが効果的に表れている作品が特に目を引いた。自然などの実物をじっくり見て、形の変化を追い、その良さや面白さを表現できていた。

(高学年) 題材がバラエティに富んでいて見応えがあった。何を描きたいのか主題がはっきりしている作品は気持ちが伝わってきた。

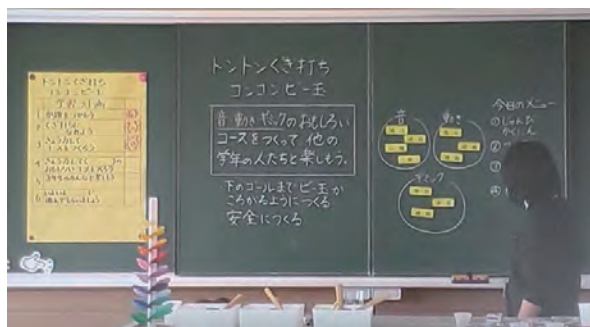
(中学校) 描くことを通して発見した色彩や光の美しさを表現しようと試みていて好感が持てた。自画像や抽象画など作品のジャンルが多様だった。立体では、自分の生活を思い起こし臨場感のある動きを目指したことで躍動感が感じられた。

◎授業研究会 (DVD 視聴)

授業者：長雄 清美 (羽後町立高瀬小学校)

題材名：トントンくぎ打ち、コンコンビー玉 (A 表現 (1) イ、(2) イ、工作)

中止となった郡市一斉研の研究授業をビデオ撮影し、DVD 化して会員に配付。各自視聴し、感想を授業者に伝えることとした。



みつめる めぐらす 創りだす

～一人一人の可能性を引き出す、未来につなぐ造形教育～

■みつめる

自分を見つめる 地域を見つめる 社会を見つめる

■めぐらす

思考を巡らせる 心を働かせる

■創りだす

自分の中に価値をつくりだす 新しい価値を生み出す

平成30年度に行われた全国造形教育研究大会秋田大会を経て、より「自分」ということに焦点を当てた教育がなされてきている。予測困難なAI社会をどう生き抜いていくのか、その鍵となるのが「自分なりの答え」を導き出すことではないだろうか。与えられた問いに向かうのではなく、自ら問いを発し、その問いに向かって試行錯誤しながら身に付けた知識や思考力を駆使していく過程は、今の時代に必要とされる学びであると考え、研究テーマを設定した。このテーマに沿って継続して研究を深めていく。

決められたゴールに向かう授業ではなく、自己選択、自己決定を繰り返しながら自分なりの答えを導き出し、自信に変えていくような学びを展開していきたい。子どもたちの可能性を引き出すことがわたしたち美術教師の責任であることを再確認し、指導を深めたい。そのためには、今一度基本に立ち返り、“何のために図画工作・美術科の学習を行うのか”“なぜこの題材に取り組むのか”“どんな力を育むのか”ということを大切に、授業構想を進めていく必要がある。単に作品作りだけで終わらず、図画工作・美術科の時間で学んだことが未来に“生きる”、“活きる”ものになっていかなければならない。

図画工作・美術科の授業において、子どもたち一人一人が自分事として本気で活動に向かい合い、「未来を生きる力」を身に付けていくことを本研究会のテーマとし、様々な可能性を探りながら実践を通して研究を進めていく。

①テーマに基づいた各校の実践→これまでの授業スタイルを疑うことから始める

子ども自身の選択や自己決定の場を意図的に設ける

子どもの姿、教師の姿（授業への考え方）がどのように変化したか

→造形セミナーで実践を基に意見交流

②県造形研HPを活用した実践紹介による情報交流

③HP「実践事例」の「わたしのあたりまえ」の更新→全県・全国への発信

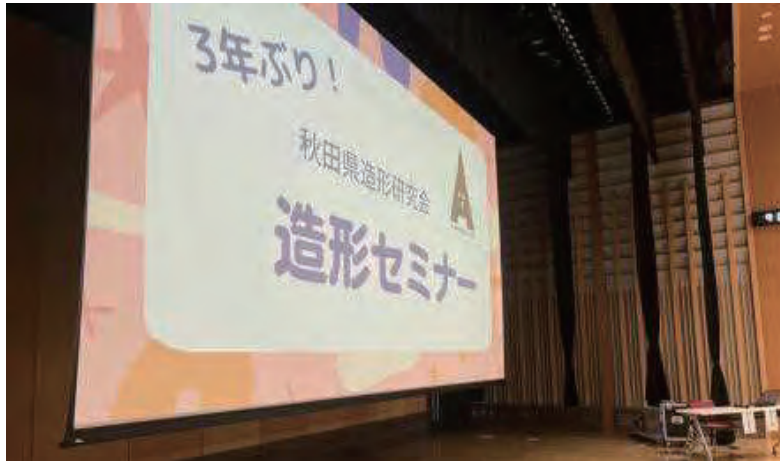
※「ICT」などテーマを設けて取組を募集。年内にHPを更新

造形セミナー

セミナーのようす

秋田市にぎわい交流館 A U 多目的ホール・研修室

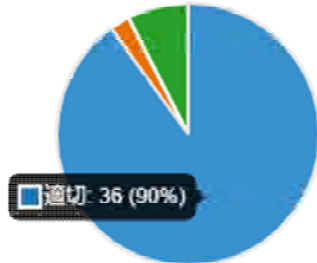
令和4年8月2日（火）9:00～12:00



1. 造形セミナーの振り返り

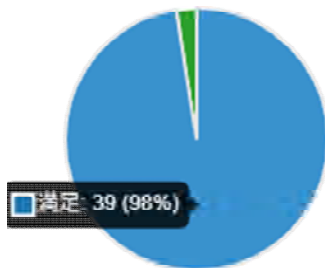
<アンケート結果より>

1、セミナーの開催時期について (適切：36 適切でない：1 どちらともいえない：3)



- 夏休みに入り、面談終了後のお盆前で参加しやすい時期であった。
- コロナの心配についてはどの時期であっても変わらないから
- ▲竿灯の前日で人流が心配
- ☆リモートを考えてみてもよかった
- ☆指導主事の協力を得るとすると時期をずらす必要がある

2、セミナーの内容について (適切：39 適切でない：0 どちらともいえない：1)



- 美術の本質的なところと、トレンドの ICT 活用について二本立てでバランスが良かった。
- 短時間であったにも関わらず、講演と実践発表の先生方が素晴らしく、充実した研修になった。
- 実践的で、すぐに使える情報が満載だったので参考になった。
- ☆小学校の先生の実践発表も聞きたかった。

3、佐々木先生の講演について

- テーマの違いが作品の違いとなって現れる事例に説得力があった。重要性を改めて感じた。
- 自分もワクワクしていけるよう、ブラッシュアップしていくことの大切さを再確認した。
- 美術を通して子供たちに向き合う姿勢に感銘を受けた。こういう先生になりたいと思った。

4、田中先生の講演について

- ICT について今知っておくべき内容と、将来の展望を感じる貴重な時間であった。
- 講演を聞き、ICT をどう使うかどうさせたいのかをはっきり持つておく必要があると思った。
- ヒントをたくさん頂いた。まずは自分で試してみ、改善しながら探っていきたい。

- 各校一人という状況がほとんどである中、集まって学び合えるのは貴重な機会であった。
- 佐々木先生、田中先生を選んで頂いてよかった。両先生の実践を参考に子供たちを育てていきたい。
- 今後、運営にもたくさんのメンバーが関わることで、更に組織としての力が高まり、自分たちの授業力向上に還元されていくと思う。造形研のメンバー同士で協力し合っていきたい。
- 久々の開催で刺激を受けた。○造形研以外の先生方にも気軽に参加してもらいたい。

5、その他、意見や感想

～個人的な反省について～

役割分担をうまく行うことができなかった。その為に、セミナーまでの流れと必要な仕事を洗い出し、集約する必要があると感じた。フォームから申し込みを行ったが、自分が申し込まれているかどうか分からないと、確認の連絡がいくつかあった。〆切の時点で名簿を添付するなど対応したい。

2. あきたのあたりまえについて

- ・若い先生もベテランの先生も、広く学び合える場にしたい。
- ・現在、造形研のHPを活用している人が少ない状況もある。
- ・「ルーティン」→「実践事例」の意味合いを強めていく。
- ・カテゴリーで分けると、活用がしやすくなる。
- ・担当する先生の負担にならないよう、形式にとらわれすぎない内容がよい。

→ブログ形式での掲載も考えられる

3. R5 研修会について

◎日時 令和5年8月 9:00~15:00頃

◎場所 にぎわい交流館

◎日程

【午前】実践発表20分+質疑応答, 指導助言

- ・実践発表1 (北)
- ・実践発表2 (中央)
- ・実践発表3 (南)
- ・実践発表4 (秋田市)

【午後】ワークショップ 一時間程度

- ・コースA B C D から一つ選択

教科の特性上、各校に一名という状況にあり指導についての情報交換をする機会も少ないことから、他地域での取り組みや、題材について知ることによって授業力の向上を目指す。

- ・期日はR4セミナーと同様に8月1, 2, 3, ?
- ・午前は実践発表、午後はワークショップを行う
- ・発表者は各地区から選考する
指導主事にも協力いただき、R4の授業の中で共有したい実践をピックアップしてもらう

<ワークショップの案>

①絵の具づくり

ターナーや、ペンてるなど業者から講師を招き、実際に絵の具をつくる体験をする。

②鑑賞の授業づくり

ICTを取り入れたものや、アートカードを使っての鑑賞活動体験。

③伝統工芸品をつかった題材づくり

あきたの伝統工芸品の実物をお借りし、端材なども用意。授業プランを考えていく。

④五感をつかった題材づくり

例えば、「コーヒー」が題材だとすると、匂いや味、場の雰囲気などから作品を作っていくという実験的なワークショップ。題材の考え方を学ぶもの。

⑤その他

業者さんから新素材を提供してもらって作品・題材づくり。タブレットを活用した題材の体験。著名な先生をお呼びしての講演会（リモートも有）。

秋田県児童生徒美術展・話題作一覽

小1	うみのおとしものはっけん ゆらゆら おどるとり あれは、つよいんだ！ パーティー からふるのあめ いい音、でてるね！ あみあみの木の公園	東湖小学校 岩城小学校 新山小学校 有浦小学校 千畑小学校 美里小学校 払戸小学校	たかはし りじん 松永 帆加 よしの ごう おばた はるな しょうぶけ ゆず 進藤 さやか 金ざわ のどか	男鹿潟上南秋 本荘由利 本荘由利 大館北秋 大曲仙北 男鹿潟上南秋 男鹿潟上南秋
小2	グラウンドにすんでるへび ふしぎなくにの鳥たち 生きもののせかいを のぞく ぼくの大好きななかまの木 命は大切	金足西小学校 院内小学校 柴平小学校 中通小学校 飯田川小学校 高瀬小学校 戸島小学校	さいとう あらた 斎藤 夢葉 橋場 陽希 関口 晴斗 古戸 千春 土田 隆大	秋田 本荘由利 鹿角 秋田 男鹿潟上南秋 湯沢雄勝
小3	まぼろしのカブトみつけ みらいへの近道 海の楽えん ふしぎな木	朝倉小学校 花輪小学校 仁井田小学校 仁井田小学校 南小学校 稲川小学校 上川沿小学校	中島 玲 山尾 一華 金谷 らりま 金野 優月 小玉 杏梨 伊藤 凧紗	秋田 横手 鹿角 秋田 秋田 大館北秋 湯沢雄勝
小4	星を生み出す風 夜にしか咲かない花 春が散る ふしぎなフラワーパラダイス 神社を守る二本の木	稲川小学校 成章小学校 仁井田小学校 戸島小学校 森岳小学校 八森小学校 飯田川小学校	日野 莉愛 稲葉 聖徠 近藤 咲 赤川 榮希 高橋 息吹 藤原 夢和 小林 桜和	大館北秋 湯沢雄勝 大館北秋 大館北秋 秋田 秋田 能代山本 能代山本
小5	夜空に流れる波 自然の伝説 葉っぱにいる毒ガエル 体育館出入口 鹿の浦海岸	飯田川小学校 新山小学校 稲川小学校 東大曲小学校 上小阿仁中学校 湯沢南中学校 仙北中学校 能代第一中学校	小玉 遥空 村井 耀 千葉 心晴 佐々木 彩音 片岡 恵生 佐藤 和心 高橋 愛純 河田 琉南	男鹿潟上南秋 本荘由利 湯沢雄勝 大曲仙北 大館北秋 湯沢雄勝 大曲仙北 能代山本
小6	地上と空の果てに 開花 30XX年 アップリケ 光に照らされた水槽	能代南中学校 田代中学校 秋田西中学校 天王南中学校 羽城中学校 湯沢北中学校 御野場中学校 将軍野中学校	高橋 一華 高橋 結空 菊池 紋菜 竹野 愛深里 菅原 有彩 伊藤 優加利 川上 結糸 石井 咲	能代山本 能代山本 男鹿潟上南秋 本荘由利 湯沢雄勝 大曲仙北 大館北秋 大館北秋
中1	夏の始まり 夏が来てほしくない複雑な気持ち 静寂 万緑 躍動	秋田西中学校 天王南中学校 羽城中学校 湯沢北中学校 御野場中学校 将軍野中学校 中仙中学校 花輪中学校 鷹巣中学校	高橋 結空 菊池 紋菜 竹野 愛深里 菅原 有彩 伊藤 優加利 川上 結糸 石井 咲 小田嶋 穂花	大館北秋 秋田 男鹿潟上南秋 男鹿潟上南秋 湯沢雄勝 秋田 秋田 大曲仙北
中2	Always 猫の隠し絵 アボリジニーアート「大自然」 1つの曲から33の感じ方「あと一步を」 Me	中仙中学校 花輪中学校 鷹巣中学校	柳澤 蓮 中山 優心	秋田 秋田 大曲仙北 鹿角 大館北秋
中3	装丁写本より アイコン・クリエイト！ 自画像～15歳の自分～ 私の世界			

小学校
1年



うみのおとしものはっけん
東湖小学校 たかはし りじん



ゆらゆら おどるとり
岩城小学校 松永 帆加



あれは、つよいんだ！
新山小学校 よしの ごう



有浦小学校
パーティー
おばた はるな



からふるのあめ
千畑小学校 しょうぶけ ゆず

小学校
2年



美里小学校

進藤 さやか

いい音、とびるねー！



払戸小学校

金ぞわ のどか

あみあみの木の公園



グラウンドにすんでるへび
金足西小学校 さいとう あらた



院内小学校

斎藤 夢栞

ふしぎなぐにの鳥たち



生きもののせかいを のぞく
柴平小学校 橋場 陽希

小学校
3年



命は大切
飯田川小学校 古戸 千春



ぼくの大好きななかまの木
中通小学校 関口 晴斗



まぼろしのカブトみっけ
高瀬小学校 土田 隆大



みらいへの近道
戸島小学校 中島 玲



海の楽えん
朝倉小学校 山尾 一華

小学校
4年



ふしぎな木
花輪小学校 金谷 らりま



星を生み出す風
仁井田小学校 金野 優月



夜にしか咲かない花
仁井田小学校 小玉 杏梨



春が散る
南小学校 伊藤 凧紗



ふしぎなフラワーパラダイス
稲川小学校 日野 莉愛

小学校
5年



神社を守る二本の木
上川沿小学校 稲葉 聖徠



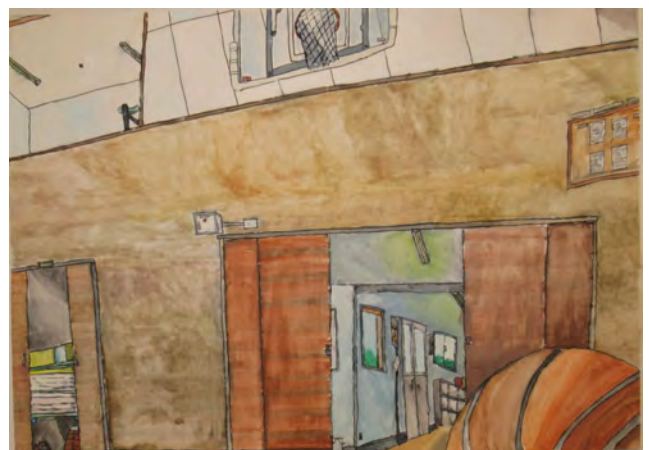
夜空に流れる波
成章小学校 近藤 咲



自然の伝説
仁井田小学校 赤川 榮希



葉っぱに
いる毒ガエル
戸島小学校 高橋 息吹



体育館出入口
森岳小学校 藤原 夢和

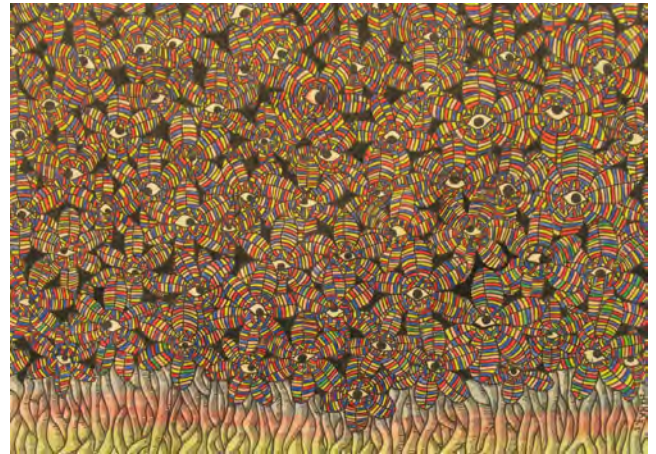
小学校
6年



鹿の浦海岸
八森小学校 小林 桜和



地上と空の果てに
飯田川小学校 小玉 遥空



開花
新山小学校 村井 耀



30XX年
稲川小学校 千葉 心晴



アップリケ
東大曲小学校 佐々木 彩音

中学校
1年



光に照らされた水槽
上小阿仁中学校 片岡 恵生



湯沢南中学校
夏の始まり
佐藤 和心



夏が来てほしくない複雑な気持ち
仙北中学校 高橋 愛純



静寂
能代第一中学校 河田 琉南

中学校
2年



能代南中学校
万緑
高橋 一華



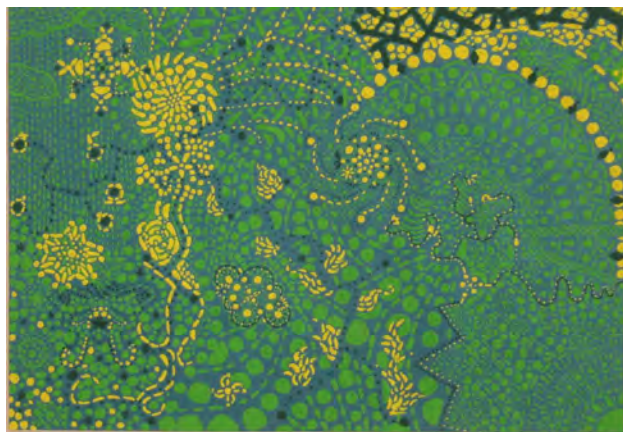
田代中学校
躍動
高橋 結空



Always
秋田西中学校 菊池 紋菜



猫の隠し絵
天王南中学校 竹野 愛深里



アボリジニーアート「大自然」
羽城中学校 菅原 有彩

中学校
3年



御野場中学校

Me

川上 結糸



中仙中学校

アイコン・クリエイト!

小田嶋 穂花



自画像～15歳の自分～
花輪中学校 柳澤 蓮



湯沢北中学校

伊藤 優加利

1つの曲から333の感じ方「あと一步を」



将軍野中学校

石井 咲

装丁写本より



私の世界
鷹巣中学校 中山 優心